



第 11 回のテーマはこちら

## 「スピリチュアルペイン」

### ～聞きなじみのない言葉だけど大切なこと～

患者の苦痛を「全人的苦痛(トータルペイン)」として捉えることがよくあると思います。全人的苦痛は「身体的苦痛」「精神的苦痛」「社会的苦痛」「スピリチュアルペイン」の 4 つ側面があります。スピリチュアルペインは「霊的苦痛」などと和訳されることもあります。スピリチュアルという言葉以上に誤解を招きやすいため、**スピリチュアルペイン**もしくは**スピリチュアルな苦痛**と表現されることが多いです。

では、スピリチュアルペインとはどのような苦痛のことなのでしょうか？

なんとなくオカルトっぽい雰囲気や宗教に関連してそうなどといったイメージから敬遠されがちなスピリチュアルペインですが、個人的には 4 つの中で**最も大切**といっても**過言ではない**と思っています。

そんな大切なスピリチュアルペイン。ここでは「**村田理論**」をベースに紹介します。

村田理論ではスピリチュアルペインを

「**自己の存在と意味の消滅から生じる苦痛である**」と定義しています。

そしてそれらを 3 本の柱として表現しており(右図)

この柱が傷つけられた時にスピリチュアルペインが生じます。

#### ●**時間存在の喪失**【未来(希望)の喪失】

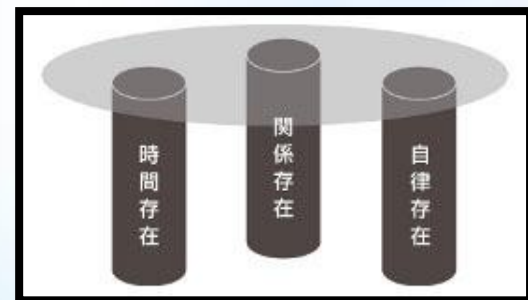
将来を失うことによる生きることの無意味さや目的が持てないなど

#### ●**関係存在の喪失**【自分という存在が消えてしまう恐怖】

人から認められたり、人に何かしてあげることで保たれていた自尊心や自分の役割が他者との関係を失うことで失われてしまうことなど。

#### ●**自律存在の喪失**【セルフケアができなくなった自分の無価値観】

自分で食事ができない、トイレに行けない等、人の世話にならなければならないのなら生きていても仕方ないと感じるなど。



スピリチュアルペインは**人間の存在意義**や**尊厳**といったデリケートな部分に密接に関係しています。

**価値観**や**死生観**などとも関連しており、とても**多様性**がある苦痛となるため

患者・家族と真摯に向き合いながら個別性に合ったケアを提供する必要があります。